

第3回災害対策リハ工学セミナーの報告

日本身障運転者支援機構 佐藤 正樹

1. はじめに

近年、大規模な災害が多くなったと感じる市民は少なくない。阪神淡路や東日本の大震災を筆頭に、台風、大雨などの気候変動に伴う災害は毎年のように各地を襲っている。そして現在では新型コロナウイルスのパンデミックが世界中で進行中でもある。このような災害の危険と不安が募る時代において、私たちは何を準備し、どう対応すべきか？今回のセミナーの最大のテーマである。

2. セミナーの概要

セミナーは、東京都八王子市が毎年開催する「八王子いちょう祭り実行委員会」の協力を得て、出来る限り幅広い市民に対して情報を発信できるよう、JR中央線高尾駅前の「イーアス高尾」という商業施設内で開催された。同会場では、東京都南多摩エリアの医療・介護・福祉事業者及び当事者の有志が主催する「南多摩福祉機器展」が開催され、本セミナーはこの機器展の会場の一部を利用した。

セミナーは大きく3つのテーマで構成され、「災害時の非常電源」「災害時の障害者の移動手段」「避難所での生活」について、各界の専門家の先生方よりご講演を頂戴した。また、テーマに即した様々な機器の展示や体験ができるスペースが用意され、自治体・事業者・市民が情報をシェアしながら、今後の協力体制について情報交換を行った。

3. 非常用電源の確保

わたくしは、セミナー中の「非常用電源」という

テーマで司会役を務めたこともあり、ここでは非常用電源についての講演内容の概略を記載したい。

非常用電源というと、ポータブル発電機をレンタルで借りる。というイメージを持つ方が多いが、実際の災害時にレンタルで発電機を借りることはかなり困難であり、事前の準備が欠かせないとの事であった。準備にあたっては非常時に接続したい機器の使用電力量などをあらかじめ合計し、その量に見合った電源を準備することが不可欠であると伺った。また八王子市保健所からは災害時に発電機を貸し出す事業を行っている旨のご説明を受けた。他の自治体でも同様の支援が計画されることを期待したい。ポータブル発電機をレンタルするという手段の他にも、例えば電動アシスト付き自転車のバッテリーやプラグインハイブリッド自動車の車載バッテリーも家庭用電源として使用可能なケースもあり、先進技術の活用による電源確保策があることを初めて知った。なお、これらのバッテリーの使用に際しては、適用の可否、使用法などをあらかじめ確認することが大切で、誤った使用法は、機器の破損やバッテリーの出火につながる恐れがあるので注意が必要とのことだった。

4. 終わりに

今回のセミナーに参加して、改めて災害時の電源や避難のための移動手段など、問題意識として自覚することが出来、さらに有用な情報を入手することも出来た。今後も学び、また広く市民社会に発信したい。

日本身障運転者支援機構

〒198-0171 東京都青梅市二俣尾 3-960-2